

**嶺北地域アクションプランの
追加・削除・拡充等（予定項目）**

**嶺北地域本部
令和8年2月2日（月）**

地域アクションプランの令和8年度の追加・削除等項目（案）

地域アクションプランの支援の方向性

地域アクションプランの目標の達成に向けて、産業振興推進地域本部を中心に、事業者等の取り組みをきめ細かく支援する。あわせて、市町村等と連携し、地域の新たなチャレンジをしっかりと伴走支援していく。

（1）地域アクションプランの実行支援

- ① 今後産振補助金の活用が見込まれる事業者の事業計画作成を支援。必要に応じて産業振興アドバイザーを投入。
- ② 雇用奨励金事業の活用促進に向け、事業者や市町村への周知を徹底するとともに、活用が見込まれる事業者への支援を強化。

（2）地域の新たなチャレンジを支援

- ① 引き続き、市町村や商工会等と連携し、地域の新しい動きに関する情報収集に努めるとともに、起業を目指す地域おこし協力隊等への個別訪問等により、地域の新たなチャレンジを支援。
- ② 地域に若者の雇用を生み出すため、地域アクションプランのあり方について検討。

地域アクションプランの増減 R7年度 156件 → R8年度 155件

（1）追加（新規）： 1件

- 地域資源を活用した粉炭づくりによる地域の課題解決および活性化（日高村）



（2）削除（廃止）： ▲ 1件

- 地域商業活性化拠点「はれのぼ」を核とした中心市街地の活性化（四万十市）

（3）統合： 2件 → 1件

- ～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業（四万十町）
- 四万十町観光交流拠点施設の整備（四万十町）

	R7年度 (第5期ver.2)	R8年度 (第5期ver.3)				AP数
	AP数 R8.1月時点	増減			計	
		追加	削除	統合		
安芸	20					20
物部川	19					19
高知市	14					14
嶺北	16					16
仁淀川	33	1			1	34
高幡	24			(2→1) ▲ 1	▲ 1	23
幡多	30		▲ 1		▲ 1	29
合計	156	1	▲ 1	▲ 1	▲ 1	155

嶺北地域アクションプラン項目（第5期計画（R7年度）と第5期計画ver.3（R8年度）の対比表）

【嶺北地域】

No.	現在(令和7年度)	本 山 町	大 豊 町	土 佐 町	大 川 村
		6	7	7	4
1	本山町のブランド米を核とした地域産業の活性化	●			
2	大豊町の伝統作物の地域産業化の推進		●		
3	土佐あかうしを活用した地域産業の活性化	●	●	●	
4	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の活性化				●
5	嶺北地域の林業・木材関連産業の担い手確保による地域活性化	●	●	●	●
6	嶺北地域のシソ・ユズを活用した地域産業の活性化	●			
7	れいほく野菜等の特産品を活用したビジネスの活性化			●	
8	嶺北地域で140年続く酒蔵を核とした地域活性化			●	
9	ジビエを活用したローカルビジネスの推進		●		
10	どぶろくによる「杉の大杉」エリアの活性化		●		
11	嶺北地域における広域観光の振興	●	●	●	●
12	アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業の振興	●			
13	ゆとりすとパークおとおよ・山荘楓ヶ森を核に吉野川流域の観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり		●		
14	山岳観光を核とした観光産業の振興				●
15	さめうら湖を核とした観光産業の振興			●	
16	土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化			●	

No.	改定案(令和8年度)	本 山 町	大 豊 町	土 佐 町	大 川 村
		6	7	7	4
1	本山町のブランド米を核とした地域産業の活性化	●			
2	大豊町の伝統作物の地域産業化の推進		●		
3	土佐あかうしを活用した地域産業の活性化	●	●	●	
4	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の活性化				●
5	嶺北地域の林業・木材関連産業の担い手確保による地域活性化	●	●	●	●
6	嶺北地域のシソ・ユズを活用した地域産業の活性化	●			
7	れいほく野菜等の特産品を活用したビジネスの活性化			●	
8	嶺北地域で140年続く酒蔵を核とした地域活性化			●	
9	ジビエを活用したローカルビジネスの推進		●		
10	どぶろくによる「杉の大杉」エリアの活性化		●		
11	嶺北地域における広域観光の振興	●	●	●	●
12	アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業の振興	●			
13	ゆとりすとパークおとおよ・山荘楓ヶ森を核に吉野川流域の観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり		●		
14	山岳観光を核とした観光産業の振興				●
15	さめうら湖を核とした観光産業の振興			●	
16	土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化			●	

嶺北地域アクションプランの追加・削除・拡充等(予定項目)

■追加

なし

■削除

なし

■その他(拡充、統合、分割等)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No.12 アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業の振興(本山町) 【実施主体】本山町、民間事業者	【修正】 指標のうち「アウトドアヴィレッジもとやまの売上高増」及び「アウトドアヴィレッジもとやまの雇用創出数」について、実態に合った数値目標となっていないため削除する。
2	No.13 ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶ヶ森を核とした観光産業の振興(大豊町) 【実施主体】大豊町、指定管理者	【修正】 指標のうち2施設(「ゆとりすとパークおおとよ」及び「山荘梶ヶ森」)の「売上高増」及び「雇用創出数」が、実態に合った数値目標となっていないため削除する。
3	No.15 さめうら湖を核とした観光産業の振興(土佐町) 【実施主体】土佐町、民間事業者等	【修正】 指標のうち3施設(「さめうら荘」及び「カヌー拠点」並びに「さめうらテントパーク」)の「売上高増」及び「雇用創出数」が、実態に合った数値目標となっていないため削除する。
4	No.16 土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化(土佐町) 【実施主体】合同会社いしはらの里、(株)いしはらキッチン、有限責任事業組合トサイチヨン、いしはらの里協議会、土佐町	【修正】 さとのみせの閉店に伴い、「さとのみせ・やまさとの市売上高」を削除し、「やまさとの市」の売り上げ目標を「宿泊・交流事業売上高」に統合し「宿泊・交流事業・やまさとの市売上高」とする。 ついては、出発点及びR9目標を下記のとおり修正する。 【出発点(R4)】 (修正前)598万円 → (修正後)907万円 【R9目標】 (修正前)900万円 → (修正後)1,525万円

修正前

嶺北地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.1 本山町のブランド米を核とした地域産業の活性化 (本山町)
実施主体	◎(一財)本山町農業公社、本山町特産品ブランド化推進協議会、 本山さくら市生産組合、本山町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	ブランド米「土佐天空の郷」の安定生産及び品質向上による米販売額の増加や、直販所「本山さくら市」の魅力化等による売上拡大に取り組み、若者が魅力を感じる雇用創出を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
土佐天空の郷・天空の棚田米の安定生産・販路拡充鬼頭桃菜大	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修会、生産確認等による栽培管理の徹底 (H20～) 米の生産体制整備(ライスセンター整備等)(H21～H23) →産振補助金の活用 交流イベント(田んぼアート等)による産地のファンづくり 水田センサー、ほ場管理アプリケーションの導入 (H29～) おむすび屋「おむすび処こめのみみ」を本山さくら市内に開店 (R2～) 「おむすび処こめのみみ」の余剰ご飯を活用した新商品開発 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 ドローンによる防除作業実施 (R3～) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「お米日本一コンテストinしずおか」にて、最優秀賞(H22)、金賞(H27)、特別最高金賞(H28) (一財)日本穀物検定協会の食味ランキングで高知県北地区「にこまる」が特A評価 (H29、H30、R元、R2、R3) 水田センサー、ドローンの導入による農作業の負担軽減 衛生管理、食品表示にかかる研修会への参加による、さくら市店舗スタッフの資質向上
本山さくら市の魅力化による売上増	<ul style="list-style-type: none"> 調理加工施設「さくら茶屋」の整備 (H25～H26) 本山さくら市生産組合から農業公社に店舗運営等委託開始 (R4) 商品の産地間交流開始 (R5) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <土佐天空の郷> <ul style="list-style-type: none"> 生産量の拡大 収益性の強化 <本山さくら市> <ul style="list-style-type: none"> 生産量・品目不足 低い販売価格 集客力不足

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)「土佐天空の郷」、「天空の棚田米」合計販売額	0.6億円 (R4)	0.77億円			0.7億円
(2)「本山さくら市」売上高	1.17億円 (R4)	1.14億円			1.5億円

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産量の拡大					
<ul style="list-style-type: none"> (一財)本山町農業公社、本山町特産品ブランド化推進協議会、本山町 <ul style="list-style-type: none"> 農地の流動化を図り、本山町農業公社が中心となって米づくりを実践(地域おこし協力隊等の導入による生産班の人材確保も検討し、現状の生産面積を維持) 栽培技術の見直しによる反収アップ(生産量をピーク時まで回復) 		農地の流動化、米づくり実践			
<ul style="list-style-type: none"> (一財)本山町農業公社、本山町特産品ブランド化推進協議会、本山町 <ul style="list-style-type: none"> 既存の卸業者への玄米販売の定着・拡大に加え、反収アップによる生産増分をより収益性の高い精米の直営販売に切り替え 栽培管理技術の見直しによる品質向上を進め、高いブランド力を維持 各種商談会への出展による新規取引先の開拓 		人材確保検討	人材導入(地域おこし協力隊等)		
売上増に向けた取り組み					
<ul style="list-style-type: none"> (一財)本山町農業公社、本山町特産品ブランド化推進協議会、本山町 <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 栽培管理技術向上支援(天候などの状況に臨機応変した栽培指導の強化) 戦略づくりや人材育成等に関する産振アドバイザー等による支援 		精米の直営販売拡大(販売戦略の見直し・実行)			
□県(農業改良普及所、地域本部等)		栽培管理技術等の見直し			
売上増に向けた機能強化					
<ul style="list-style-type: none"> (一財)本山町農業公社、本山さくら市生産組合、本山町 <ul style="list-style-type: none"> 商品の産地間交流拡大、適正価格設定、来店者・購入者の属性分析、土日の利用者増に向けたイベント開催、飲食機能の検討、店舗内レイアウト等の見直し、店舗運営の人材確保・育成 		機能強化の検討・実施(産地間交流、適正価格設定、イベント開催等)			
□県(農業改良普及所、地域本部等)		野菜等の生産・出荷量の拡大			
<ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 野菜栽培暦の作成・改善支援、栽培技術向上支援 人材育成等に関する産振アドバイザー等による支援 関係機関との連携に向けた調整、情報提供 		店舗運営の人材確保・育成			
		地域内外の事業者等との連携			

嶺北地域アクションプラン

		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.1 本山町のブランド米を核とした地域産業の活性化 (本山町)		
実施主体	◎(一財)本山町農業公社、本山町特産品ブランド化推進協議会、 本山さくら市生産組合、本山町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	ブランド米「土佐天空の郷」の安定生産及び品質向上による米販売額の増加や、直販所「本山さくら市」の魅力化等による売上拡大に取り組み、若者が魅力を感じる雇用創出を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
土佐天空の郷・天空の棚田米の安定生産・販路拡充鬼頭桃菜大	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修会、生産確認等による栽培管理の徹底 (H20～) 米の生産体制整備(ライスセンター整備等)(H21～H23) →産振補助金の活用 交流イベント(田んぼアート等)による産地のファンづくり 水田センサー、ほ場管理アプリケーションの導入 (H29～) おむすび屋「おむすび処こめのみみ」を本山さくら市内に開店 (R2～) 「おむすび処こめのみみ」の余剰ご飯を活用した新商品開発 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 ドローンによる防除作業実施 (R3～) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「お米日本一コンテストinしずおか」にて、最優秀賞(H22)、金賞(H27)、特別最高金賞(H28) (一財)日本穀物検定協会の食味ランキングで高知県北地区「にこまる」が特A評価 (H29、H30、R元、R2、R3) 水田センサー、ドローンの導入による農作業の負担軽減 衛生管理、食品表示にかかる研修会への参加による、さくら市店舗スタッフの資質向上
本山さくら市の魅力化による売上増	<ul style="list-style-type: none"> 調理加工施設「さくら茶屋」の整備 (H25～H26) 本山さくら市生産組合から農業公社に店舗運営等委託開始 (R4) 商品の産地間交流開始 (R5) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <土佐天空の郷> <ul style="list-style-type: none"> 生産量の拡大 収益性の強化 <本山さくら市> <ul style="list-style-type: none"> 生産量・品目不足 低い販売価格 集客力不足

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)「土佐天空の郷」、「天空の棚田米」合計販売額	0.6億円 (R4)	0.77億円			0.7億円
(2)「本山さくら市」売上高	1.17億円 (R4)	1.14億円			1.5億円

第5期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
	<p>生産量の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> (一財)本山町農業公社、本山町特産品ブランド化推進協議会、本山町 <ul style="list-style-type: none"> 農家等への積極的な勧誘によるブランド化推進協議会会員の増加、生産面積の維持・拡大 栽培技術の見直しによる反収アップ(生産量をピーク時まで回復) <p>売上増に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> (一財)本山町農業公社、本山町特産品ブランド化推進協議会、本山町 <ul style="list-style-type: none"> 既存の卸業者への玄米販売の定着・拡大に加え、反収アップによる生産増分をより収益性の高い精米の直営販売に切り替え 栽培管理技術の見直しによる品質向上を進め、高いブランド力を維持 各種商談会への出展による新規取引先の開拓 県(農業改良普及所、地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 栽培管理技術向上支援(天候などの状況に臨機応変した栽培指導の強化) 戦略づくりや人材育成等に関する産振アドバイザー等による支援 				
					<p>精米の直営販売拡大(販売戦略の見直し・実行)</p>
					<p>栽培管理技術等の見直し</p>
<p>売上増に向けた機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> (一財)本山町農業公社、本山さくら市生産組合、本山町 <ul style="list-style-type: none"> 商品の産地間交流拡大、適正価格設定、来店者・購入者の属性分析、土日の利用者増に向けたイベント開催、飲食機能の検討、店舗内レイアウト等の見直し、店舗運営の人材確保・育成 県(農業改良普及所、地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 野菜栽培暦の作成・改善支援、栽培技術向上支援 人材育成等に関する産振アドバイザー等による支援 関係機関との連携に向けた調整、情報提供 					<p>機能強化の検討・実施(産地間交流、適正価格設定、イベント開催等)</p>
					<p>野菜等の生産・出荷量の拡大</p>
					<p>店舗運営の人材確保・育成</p>
					<p>地域内外の事業者等との連携</p>

嶺北地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.4 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の活性化 (大川村)
実施主体	◎(株)むらびと本舗、◎(一社)大川村ふるさとむら公社、大川村
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
【大川黒牛】生産体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・肥育牛舎（150頭規模）の整備（H27） → 産振補助金の活用 ・黒牛増殖基金の設立（R元） ・巡回指導等による技術支援 ・繁殖、肥育牛舎の増築（R5～） ・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物のPR・販路拡大（R3～） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆黒牛年間出荷頭数 R2：50頭 R3：40頭 R4：51頭 R5：55頭 ◆はちきん地鶏販売額 R元：115,168千円 R4：127,691千円 R5：113,409千円
【はちきん地鶏】経営改善・販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏舎の整備（10万羽規模）（H21～H22） → 産振補助金の活用 ・大川村プロジェクト産業振興部会の立ち上げ（H26～） ・鶏舎の整備（4万羽規模）（H28） ・食鳥処理施設の整備（H29） → 地方創生推進交付金、産振補助金の活用 ・食鳥処理事業の専門的知識を有する外部専門人材の導入（R元） → 産振補助金の活用 ・専門家による経営分析及び経営改善計画策定（R2） → 産振補助金の活用 ・販売量に見合った生産規模の適正化、販売戦略の見直し（R2～R4） → 産振アドバイザー制度の活用 ・営業職員の雇用（H30～） ・生産施設（育成舎3棟分）において自動給餌器等整備（R2） → 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用 ・はちきん地鶏事業経営改善会議（R3～R4 計4回） ・はちきん地鶏事業再建チーム会議（R3～R6 計5回） ・食鳥処理施設の人材確保（外国人技能実習生の受け入れ）（R6） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大川黒牛 ・繁殖雌牛の高齢化による将来的な出荷頭数の減 ◆はちきん地鶏 ・収支バランスを確保しつつ生産規模を拡大できる体制の構築 ・食鳥処理施設の人手不足に伴う外部委託増による収支悪化 ・営業力の強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)黒牛の販売額	6,815万円 (R4)	5,247.9万円			7,800万円
(2)はちきん地鶏販売額	1億 2,673万円 (R4)	1億 3,028万円			1.8億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
【大川黒牛】生産体制の強化 ■(株)むらびと本舗 ・繁殖牛、肥育牛の増頭、増殖基金の活用 ・後継者人材の獲得 ■大川村 ・牛舎の改修（年60頭程度の出荷を維持できるような繁殖雌牛・肥育牛の増頭）、各種事業（増殖基金等）による経営支援 ・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物のPR、販路拡大 □県（地域本部、家畜保健衛生所等） ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 ・巡回指導等による技術支援				
【土佐はちきん地鶏】食鳥処理施設の安定運営と収支改善および販路拡大 ■(株)むらびと本舗 ・飼養管理技術の向上、鶏の安定生産 ■(一社)大川村ふるさとむら公社 ・食鳥処理施設の人材確保（外国人技能実習生の受け入れ） ・事業支出の圧縮による収支改善 ・適正な販売価格の設定、利益率の高い加工品の営業強化 ・食鳥処理施設の設備導入の検討 ■大川村 ・関係機関との協議（大川村プロジェクト等）による経営改善支援 ・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物のPR、販路拡大 ・鶏舎・食鳥処理施設の設備導入の検討 □県（地域本部、家畜保健衛生所等） ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 ・関係機関と連携した協議（大川村プロジェクト等）による経営改善支援 ・販路開拓等の支援 ・巡回指導等による技術支援				

嶺北地域アクションプラン

		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.4 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の活性化 (大川村)		
実施主体	◎(株)むらびと本舗、◎(一社)大川村ふるさとむら公社、大川村		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
【大川黒牛】生産体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 肥育牛舎（150頭規模）の整備（H27） → 産振補助金の活用 黒牛増殖基金の設立（R元） 巡回指導等による技術支援 繁殖牛舎の改修（R5） 「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物のPR・販路拡大（R3～） ECサイトにおける謝肉祭セットの販売（R6） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆黒牛年間出荷頭数 R2：50頭 R3：40頭 R4：51頭 R5：55頭 R6：43頭 ◆はちきん地鶏販売額 R元：115,168千円 R4：127,691千円 R5：113,409千円
【はちきん地鶏】経営改善・販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> 鶏舎の整備（10万羽規模）（H21～H22）→ 産振補助金の活用 大川村プロジェクト産業振興部会の立ち上げ（H26～） 鶏舎の整備（4万羽規模）（H28） 食鳥処理施設の整備（H29） → 地方創生推進交付金、産振補助金の活用 食鳥処理事業の専門的知識を有する外部専門人材の導入（R元） → 産振補助金の活用 専門家による経営分析及び経営改善計画策定（R2） → 産振補助金の活用 販売量に見合った生産規模の適正化、販売戦略の見直し（R2～R4）→ 産振アドバイザー制度の活用 営業職員の雇用（H30～） 生産施設（育成舎3棟分）において自動給餌器等整備（R2） → 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用 はちきん地鶏事業経営改善会議（R3～R4 計4回） はちきん地鶏事業再建チーム会議（R3～R6 計5回） 食鳥処理施設の人材確保（外国人技能実習生の受け入れ）（R6） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大川黒牛 ・生産人材の不足 ・大川黒牛ブランドとしての市場流通 ◆はちきん地鶏 ・収支バランスを確保しつつ生産規模を拡大できる体制の構築 ・食鳥処理施設の人手不足に伴う外部委託増による収支悪化 ・営業力の強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)黒牛の販売額	6,815万円 (R4)	5,247.9万円			7,800万円
(2)はちきん地鶏販売額	1億 2,673万円 (R4)	1億 3,028万円			1.8億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>【大川黒牛】生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(株)むらびと本舗 <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖牛、肥育牛の増頭、増殖基金の活用・後継者人材の獲得 ■大川村 <ul style="list-style-type: none"> ・各種事業（増殖基金等）による経営支援 ・人材確保に向けた地域おこし協力隊や外国人技能実習生等の受入 ・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物のPR、販路拡大 □県（地域本部、家畜保健衛生所等） <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 ・巡回指導等による技術支援 				
<p>【土佐はちきん地鶏】食鳥処理施設の安定運営と収支改善および販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(株)むらびと本舗 <ul style="list-style-type: none"> ・飼養管理技術の向上、鶏の安定生産 ■(一社)大川村ふるさとむら公社 <ul style="list-style-type: none"> ・食鳥処理施設の人材確保（外国人技能実習生の受け入れ） ・事業支出の圧縮による収支改善 ・適正な販売価格の設定、利益率の高い加工品の営業強化 ■大川村 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との協議（大川村プロジェクト等）による経営改善支援 ・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物のPR、販路拡大 ・鶏舎・食鳥処理施設のデジタル技術導入の検討 □県（地域本部、家畜保健衛生所等） <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 ・関係機関と連携した協議（大川村プロジェクト等）による経営改善支援 ・販路開拓等の支援 ・巡回指導等による技術支援 				

嶺北地域アクションプラン

分野 商工業

AP名 (実施地域)	No.7 れいほく野菜等の特産品を活用したビジネスの活性化 (土佐町)
実施主体	©sanchikara、NPO 法人土佐さめうら観光協会、土佐町
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	嶺北地域の小規模農家等が生産する農産物を集約し、都市部の飲食店等への直接販売を行うビジネスを強化して、さらなる売上げ増を図り、雇用の創出につなげる。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
農産物の直接販売の 仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 受発注システムを活用した農産物の直接販売 (H28~) 嶺北地域内の生産者への呼びかけ 新規就農者との連携 (H29~) sanchikara の立ち上げ (H29) 栽培イタダリの生産地視察 (H29) 集出荷拠点確保に向けた検討 (H30~) さくら市との連携 (R元~) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接取引飲食店等の件数 H27:0件 →R5:400件 直接取引関係生産者等 H27:0者 →R5:40者 売上げの増加 H30:1,955万円 →R5:4,000万円 <p>(取扱品目は飲食店、小売店への青果・加工品)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な品目の確保 販路拡大 一般消費者の販売額拡大
販路の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 「スーパーマーケットトレードショー」など、県外商談会への出展 (H28~) 産地視察型商談会の受入 (H28~) ふるさと納税の受託 (H28~) 道の駅土佐さめうらでの直販 (H30~) まると高知での販売 (R元) 土佐れいほく博関連イベントへの出展 (R元) 阪急梅田関係とのスポット販売の検討 (R2) 今後のさらなる販路拡大に向けた組織体制の強化 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
県外飲食店等との直接取引による販売額	3,500万円 (R4)	4,400万円			1億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>さらなる農産物の確保に向けた仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ■sanchikara <ul style="list-style-type: none"> 生産者への呼びかけ、管内直販所等との連携 新たな農産物の掘り起こし 顧客のニーズに対応した取扱い商品の充実 ■土佐町 <ul style="list-style-type: none"> 新たな集出荷拠点の確保に向けた検討 □県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理 関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>外商活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■sanchikara <ul style="list-style-type: none"> 法人化 (R6 予定) し営業活動、外商活動を強化 県外商談会やイベント等への参加、産地視察の受入れ、ふるさと納税への販売の充実 □県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理 販路拡大のための各種商談会、支援制度に関する情報提供 				

嶺北地域アクションプラン

分野 商工業

AP名 (実施地域)	No.7 れいほく野菜等の特産品を活用したビジネスの活性化 (土佐町)
実施主体	©sanchikara、NPO 法人土佐さめうら観光協会、土佐町
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	嶺北地域の小規模農家等が生産する農産物を集約し、都市部の飲食店等への直接販売を行うビジネスを強化して、さらなる売上げ増を図り、雇用の創出につなげる。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
農産物の直接販売の 仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 受発注システムを活用した農産物の直接販売 (H28～) 嶺北地域内の生産者への呼びかけ 新規就農者との連携 (H29～) sanchikara の立ち上げ (H29) 栽培イタダリの生産地視察 (H29) 集出荷拠点確保に向けた検討 (H30～) さくら市との連携 (R元～) <u>地域内加工事業者の販路拡大支援 (R3～)</u> 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接取引飲食店等の件数 H27: 0 件 → R6: 505 件 直接取引関係生産者等 H27: 0 者 → R6: 40 者 売上げの増加 H30: 1,955 万円 → R6: 4,400 万円 (取扱品目は飲食店、小売店への青果・加工品)
販路の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 「スーパーマーケットトレードショー」など、県外商談会への出展 (H28～) 産地視察型商談会の受入 (H28～) ふるさと納税の受託 (H28～) 道の駅土佐さめうらでの直販 (H30～) まるごと高知での販売 (R元) 土佐れいほく博関連イベントへの出展 (R元) 阪急梅田関係とのスポット販売の検討 (R2) <u>ECサイトによる一般消費者向け販売強化 (R6～)</u> 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な品目の確保 販路拡大 一般消費者の販売額拡大 生産者の高齢化に伴う新規就農者の確保

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
県外飲食店等との直接取引による販売額	3,500万円 (R4)	4,400万円			1億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>さらなる農産物の確保に向けた仕組みづくり</p> <p>■sanchikara</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者への呼びかけ、管内直販所・加工事業者等との連携 新たな農産物の掘り起こし 顧客のニーズに対応した取扱い品目の充実 研修制度等の整備による新規就農者の確保に向けた仕組みづくり <p>■土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> 集出荷拠点の確保に向けた検討 新規就農者の確保に向けた人材確保 <p>□県（地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理 関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>外商活動の強化</p> <p>■sanchikara</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外商談会やイベント等への参加、産地視察の受入れ、ふるさと納税への販売の充実 <p>□県（地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理 販路拡大のための各種商談会、支援制度に関する情報提供 				

修正後

嶺北地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.12 アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業の振興 (本山町)		
実施主体	◎本山町、◎民間事業者		
APへの位置づけ	H28.4月		
事業概要	<p><u>アウトドア拠点施設（アウトドアヴィレッジもとやま）を核として、地域ならではの豊かな自然や食、歴史、文化等を活用した魅力ある体験プログラムを全国に発信することで、地域への誘客を促進し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。</u></p>		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)アウトドアヴィレッジもとやまの利用者数	51,191人 (R4)	39,638人			58,000人

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
アウトドア拠点施設（アウトドアヴィレッジもとやま）の運営・誘客	<ul style="list-style-type: none"> ・高知・本山アウトドアの里づくり推進協議会の開催（H28～） ・アウトドア拠点施設（ビジターセンター、個人・団体宿泊棟、飲食施設、温浴施設）の整備（H28～R元） ・アウトドア拠点施設の指定管理者決定（H30） ・白髪山八反奈路への新たな登山道の整備（H30） ・アウトドア拠点施設のオープン（R元.7） ・アウトドアインストラクター養成講座の実施（H28～） ・県内旅行会社・学校等への営業活動の実施（R2） ・防災学習や地域学習など多様なニーズに対応した修学旅行の受け入れ（R3） ・旅行会社・教育関係者向けモニターツアー、アンケート調査等の実施（R4） ・モンベルフレンドフェア in 本山の開催（R4） ・<u>台湾・香港等をターゲットとした商品造成に着手（R7）</u> ・<u>→産振アドバイザー制度の活用</u> 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアインストラクター養成講座の受講者数（登山ガイド、リバーガイド等） ・<u>120回延べ815人</u>（H28～R7） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閑散期対策 ・客単価アップ ・町内への経済的波及効果の創出 ・ガイドスキルを持った人材不足 ・効果的な情報発信・営業活動

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
利用者数及び売上の増 ■本山町（地域おこし協力隊含む）、民間事業者 ・ハイシーズンの客単価アップによる売上増 →宿泊客向けオプションツアーの造成 →BBQ等の単価アップ など ・閑散期（4～6月、12～2月）の利用者増による売上増 →クルーズ船利用者（外国人）をターゲットにした、棚田や野菜収穫など地域の魅力を活かした商品づくり →学生合宿、企業研修等のプラン検討 →土佐れいほく観光協議会と連携した情報発信・営業活動 □県（地域本部等） ・各種アドバイザー等による支援、関係機関との連携調整、各種情報提供、各種取り組みの進捗管理等				
		商品造成・磨き上げ		
			閑散期対策の強化	
				情報発信・営業活動強化

嶺北地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.13 ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶ヶ森を核に吉野川流域の観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり (大豊町)	
実施主体	◎大豊町、◎指定管理者、◎民間事業者等	
APへの位置づけ	R6.4月	
事業概要	大豊町の2大観光施設である「ゆとりすとパークおおとよ」、「山荘梶ヶ森」それぞれの施設がポテンシャルを生かした観光コンテンツを造成するなど、両施設の再活性化を図る。また、両施設を核に、吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光を促進し売上増を進め、若者が魅力を感じる雇用の受け皿として整備する。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
集客促進	<p>【ゆとりすとパークおおとよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジビエグルメフェスタ等の大規模イベントの実施 (H24~R元) ・各種イベントの誘致 (R4~) 「復活! 連休まつり (昭和レトロな遊びを楽しむイベント)」 (R6) 「子供まつり (昔遊びやゲームを楽しむイベント)」 (R6) 「ランクルズ ZEKKEICAMP」 (R6) <p>【山荘梶ヶ森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレッキングツアーガイド養成講座の実施 (R2~) ・トレッキングツアー、星空観察会などのイベント実施 (R3~) ・趣向を凝らした新規イベントの実施 (R6) 「山頂わら焼き体験」 (4月) 「梶ヶ森フォトコンテスト」 (7~8月) など 	<p>【成果】</p> <p>(ゆとりすとパーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客イベント実施 R5: 5回 <p>(山荘梶ヶ森)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季営業日数 R5: 3日間 (R6.1.1~1.3) R6: 冬季休業 (R6.12.1~1.14)
施設の魅力向上	<p>【ゆとりすとパークおおとよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コテージ、ログハウス、キャンプ場等の施設の魅力化 (H30~R3) → 観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・子ども向け遊具のリニューアル (R4) <p>【山荘梶ヶ森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立自然公園を生かした登山道の整備 (R元~) ・施設改修工事の実施 (寒冷地対策) (R4) 	<p>【課題】</p> <p>(ゆとりすとパークおおとよ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客力が弱い ・企画力のある人材確保 <p>(山荘梶ヶ森)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の魅力化 ・閑散期対策 (冬期) ・施設の魅力化
吉野川流域の周遊観光の促進		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)ゆとりすとパークおおとよ入込数 (入場者+宿泊者)	23,321人 (R4)				27,000人
(2)山荘梶ヶ森宿泊者数	1,133人 (R4)				1,300人
(3)売上高増(2施設計)	-				25,000千円
(4)雇用創出数 (2施設計)	-				2人

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>集客イベントの実施</p> <p>■大豊町、指定管理者</p> <p>【ゆとりすとパークおおとよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オートバイ神社を設置しツーリング客を呼び込む (レストランのカフェ機能強化、記念グッズ販売) ・広大な芝生を活用したイベントの定期実施 (月1回程度) ・専門性、企画力のある人材の確保・育成 <p>【山荘梶ヶ森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏、冬のそれぞれにおいて立地のメリットを生かし、天体観測などのターゲットを見据えた集客イベントの実施 ・インバウンド (主に台湾) 展示会等への現地出展によるPR (年3回) <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 ・産振補助金等、各種助成制度の情報提供 		<p>オートバイ神社の設置・レストランメニューの充実</p>		
		<p>専門人材の確保</p>	<p>地域おこし協力隊等を導入した人材育成</p>	
			<p>立地のメリットを生かしたイベントの定期実施 (月1回)</p>	
				<p>インバウンド (主に台湾) 展示会等への出展</p>
<p>施設整備</p> <p>■大豊町、指定管理者</p> <p>【ゆとりすとパークおおとよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い人材を確保し、広大な敷地を活用した、コンセプトの「風とあそび」を体感できる魅力ある施設へのリニューアル【基本構想づくり】 <p>【山荘梶ヶ森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期営業を可能とする周辺インフラ、施設整備の実施 (水道設備の凍結防止、施設までの利用客の移動手段確保など) <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 ・産振補助金等、各種助成制度の情報提供 		<p>専門性の高い人材の確保・施設整備の方向性(基本構想)策定</p>		<p>周辺インフラ・施設整備の実施</p>
		<p>類似施設の冬期対策情報収集</p>		
<p>吉野川流域の周遊観光の促進</p> <p>■大豊町、指定管理者、民間事業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2施設を核に吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり、その売上を集約して雇用を創出する法人づくり ・廃校を利用した観光拠点の整備を検討 			<p>吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり (ゆとりすと→国宝→定福寺→廃校(観光拠点)→梶ヶ森 など)</p>	
				<p>雇用創出 (受け皿づくり)</p>

嶺北地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.13 ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶ヶ森を核に吉野川流域の観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり (大豊町)	
実施主体	◎大豊町、◎指定管理者、◎民間事業者等	
APへの位置づけ	R6.4月	
事業概要	大豊町の2大観光施設である「ゆとりすとパークおおとよ」、「山荘梶ヶ森」それぞれの施設がポテンシャルを生かした観光コンテンツを造成するなど、両施設の再活性化を図る。また、両施設を核に、吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光を促進し売上増を進め、若者が魅力を感じる雇用の受け皿として整備する。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
集客促進	<p>【ゆとりすとパークおおとよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジエグルメフェスタ等の大規模イベントの実施 (H24~R元) ・各種イベントの誘致 (R4~) 「復活！連休まつり(昭和レトロな遊びを楽しむイベント)」(R6) 「子供まつり(昔遊びやゲームを楽しむイベント)」(R6) 「ランクルズ ZEKKEICAMP」(R6) ・「オートバイ神社オープニングイベント」の実施 (R7) <p>【山荘梶ヶ森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレッキングツアーガイド養成講座の実施 (R2~) ・トレッキングツアー、星空観察会などのイベント実施 (R3~) ・趣向を凝らした新規イベントの実施 (R6) 「山頂わら焼き体験」(4月) 「梶ヶ森フォトコンテスト」(7~8月) など ・「ミシュラン獲得したお店のフレンチシェフのランチ&ディナーの提供」(R7) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> (ゆとりすとパーク) ・集客イベント実施 R7: 10回 (山荘梶ヶ森) ・冬季営業日数 R5: 3日間 (R6.1.1~1.3) R6: 冬季休業 (R6.12.1~R7.3.14) R7: 冬季休業 (R7.12.14~R8.3.19)
施設の魅力向上	<p>【ゆとりすとパークおおとよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コテージ、ログハウス、キャンプ場等の施設の魅力化 (H30~R3) → 観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・子ども向け遊具のリニューアル (R4) ・「県内第一号となるオートバイ神社の設置」(R7) <p>【山荘梶ヶ森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立自然公園を生かした登山道の整備 (R元~) ・施設改修工事の実施(寒冷地対策) (R4) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> (ゆとりすとパークおおとよ) ・集客力が弱い ・企画力のある人材確保 ・施設の魅力化 (山荘梶ヶ森) ・閑散期対策(冬期) ・施設の魅力化
吉野川流域の周遊観光の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・「廃校を利用した観光拠点の整備に向け、大豊町と高知鳥屋書店、(株)モデルビレッジの3者が旧おおとよ小学校の利活用に向けての連携協定締結」(R7) ・「出張高知鳥屋書店 in おおとよ小学校」の開催 (R7) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)ゆとりすとパークおおとよ入込数 (入場者+宿泊者)	23,321人 (R4)	<u>12,866人</u>			27,000人
(2)山荘梶ヶ森宿泊者数	1,133人 (R4)	<u>1,886人</u>			1,300人

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>集客イベントの実施</p> <p>■大豊町、指定管理者</p> <p>【ゆとりすとパークおおとよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オートバイ神社を設置しツーリング客を呼び込む(レストランのカフェ機能強化、記念グッズ販売) ・広大な芝生を活用したイベントの定期実施(月1回程度) ・専門性、企画力のある人材の確保・育成 <p>【山荘梶ヶ森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏、冬のそれぞれにおいて立地のメリットを生かし、天体観測などのターゲットを見据えた集客イベントの実施 ・インバウンド(主に台湾)展示会等への現地出展によるPR(年3回) <p>□県(地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 ・産振補助金等、各種助成制度の情報提供 		<p>オートバイ神社の設置・レストランメニューの充実</p>		
		<p>広大な芝生を活用したイベントの定期実施(月1回)</p>		
		<p>専門人材の確保</p>	<p>地域おこし協力隊等を導入した人材育成</p>	
			<p>立地のメリットを生かしたイベントの定期実施(月1回)</p>	
			<p>インバウンド(主に台湾)展示会等への出展</p>	
<p>施設整備</p> <p>■大豊町、指定管理者</p> <p>【ゆとりすとパークおおとよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い人材を確保し、広大な敷地を活用した、コンセプトの「風とあそび」を体感できる魅力ある施設へのリニューアル【基本構想づくり】 <p>【山荘梶ヶ森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期営業を可能とする周辺インフラ、施設整備の実施(水道設備の凍結防止、施設までの利用客の移動手段確保など) <p>□県(地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等 ・産振補助金等、各種助成制度の情報提供 		<p>専門性の高い人材の確保・施設整備の方向性(基本構想)策定</p>		<p>周辺インフラ・施設整備の実施</p>
		<p>類似施設の冬期対策情報収集</p>		
<p>吉野川流域の周遊観光の促進</p> <p>■大豊町、指定管理者、民間事業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2施設を核に吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり ・廃校を利用した観光拠点の整備を検討 				<p>吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり(ゆとりすと→国宝→定福寺→廃校(観光拠点)→梶ヶ森など)</p>

嶺北地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.15 さめうら湖を核とした観光産業の振興 (土佐町)		
実施主体	◎土佐町、◎民間事業者等		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	<p>さめうら荘のさらなる魅力化とともに、湖面を活用した観光客向けのアウトドアアクティビティ体験を提供することで、地域外からのさらなる観光客の誘客を図る。また、さめうら湖畔に整備した拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウトドアスポーツの競技力向上や合宿誘致の取り組み等を通じて、嶺北地域全体の交流人口の拡大につなげる。</p> <p>こうした取り組みを通じて、観光拠点として継続して成長する仕組みをつくり、若年層の雇用の受け皿づくりを進める。</p>		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
さめうら荘への誘客	<ul style="list-style-type: none"> ・新さめうら荘グランドオープン（H31.4月） ・顧客満足度向上に向けた取り組みの導入やスタッフのスキルアップ（R元）→産振アドバイザー制度の活用 ・レストランメニューの充実 ・カヌー、SUP体験をセットにした宿泊プランの提供 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌーやSUP体験をセットにした宿泊プランの提供など、さめうら湖周辺の誘客増 ・カヌー拠点施設利用者 R2：6,329人 → R5：13,870人 ・さめうらテントパークの段階的な整備（R3～）
さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンガリー人のカヌー指導者の招聘（H29） ・カヌーのまち嶺北推進協議会設立（H29） ・カヌーアカデミーの実施（H29～） ・カヌー拠点施設の収支計画及びさめうら湖周辺整備基本計画の策定（H30）→産振アドバイザー制度の活用 ・カヌー拠点施設完成、オープン（R2.9月） ・カヌー合宿の誘致 ・SUP、サイクリング等体験メニューの実施 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層や新卒者の雇用の受け皿につなげるため、各種イベント等の連携強化及び売上の集約 ・カヌー等のスポーツのメッカと言われるほどの知名度の向上
さめうらテントパークの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期工事（R3） 区画サイト整備、車両用通路整備、炊事棟、Wi-Fi整備 ・第2期工事（R5） テントサイト増設（2サイト）、管理棟新設 	<ul style="list-style-type: none"> ・さめうら湖周辺のさらなる誘客と嶺北地域の交流人口の拡大
人材確保、育成	<ul style="list-style-type: none"> ・特定地域づくり事業協同組合設立に向けた準備（R6） 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)さめうら荘利用者数	18,902人 (R4)				22,000人
(2)カヌー拠点施設利用者数	12,152人 (R4)				14,000人
(3)さめうらテントパーク利用者数	758人 (R4)				2,800人
(4)売上高増	—				13,000千円
(5)雇用創出数	—				1人

第5期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
<p>さめうら荘への誘客</p> <p>■土佐町、民間事業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある自然体験プログラム商品のさらなる造成による客単価アップ ・とさんぼ掲載のアクティビティの充実及び宿泊プランとの連携 ・嶺北地域の食や町並みなど観光素材を組み合わせたツアー造成 ・SNS等を活用した効果的なプロモーション、土佐れいほく観光協議会と連携した情報発信 <p>□県（地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等(以下同じ) ・各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 					<p>魅力ある体験プログラムの造成・宿泊プランとのセットによる誘客</p> <p>レストランメニューのさらなる充実</p> <p>受け入れ体制のさらなる充実（スタッフの接客スキルアップ等）</p> <p>営業活動・情報発信の強化</p>
<p>さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興</p> <p>■土佐町、民間事業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖面を利用したスポーツイベントや競技大会の誘致強化 ・スポーツ合宿の誘致 ・カヌーやサイクリングを中心とした観光客向けアクティビティ商品の磨き上げ ・さめうら荘宿泊者をターゲットとした体験プログラムを造成 <p>□県（地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関への橋渡し、県内の市町村との連携支援 ・各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 					<p>スポーツイベントや競技大会等の誘致</p> <p>スポーツ合宿の誘致</p> <p>アクティビティ商品等のさらなる磨き上げ</p>
<p>さめうらテントパークの整備</p> <p>■土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期工事の実施（RVパークの整備） 					<p>施設整備</p>
<p>人材確保、育成</p> <p>■土佐町、民間事業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな雇用創出に向けた、収益力の強化 ・特定地域づくり事業協同組合を活用した人材の確保 					<p>雇用創出につながる売上集約の仕組み作り</p> <p>特定地域づくり事業協同組合を活用した人材確保</p>

嶺北地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.15 さめうら湖を核とした観光産業の振興 (土佐町)		
実施主体	◎土佐町、◎民間事業者等		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	<p>さめうら荘のさらなる魅力化とともに、湖面を活用した観光客向けのアウトドアアクティビティ体験を提供することで、地域外からのさらなる観光客の誘客を図る。また、さめうら湖畔に整備した拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウトドアスポーツの競技力向上や合宿誘致の取り組み等を通じて、嶺北地域全体の交流人口の拡大につなげる。</p> <p>こうした取り組みを通じて、観光拠点として継続して成長する仕組みをつくり、若年層の雇用の受け皿づくりを進める。</p>		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
さめうら荘への誘客	<ul style="list-style-type: none"> ・新さめうら荘グランドオープン (H31.4月) ・顧客満足度向上に向けた取り組みの導入やスタッフのスキルアップ (R元) → 産振アドバイザー制度の活用 ・レストランメニューの充実 (R元～) ・<u>早明浦ダムインフラツーリズムを核とした宿泊ツアーの実施 (R5～)</u> ・<u>土佐あかうし特別メニューの開発 (R7～)</u> ・<u>高付加価値化に向けたブランドストーリーの再構築及びサービス強化 (R7) →産振アドバイザー制度を活用</u> 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌーや SUP 体験をセットにした宿泊プランの提供など、さめうら湖周辺の誘客増 ・カヌー拠点施設利用者 R2 : 6,329人 → R6 : 14,481人 ・さめうらテントパークの段階的な整備 (R3～)
さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンガリー人のカヌー指導者の招聘 (H29) ・カヌーのまち嶺北推進協議会設立 (H29) ・カヌーアカデミーの実施 (H29～) ・カヌー拠点施設の収支計画及びさめうら湖周辺整備基本計画の策定 (H30) → 産振アドバイザー制度の活用 ・カヌー拠点施設完成、オープン (R2.9月) ・カヌー合宿の誘致 (R3～) ・SUP、サイクリング等体験メニューの実施 (R3～) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層や新卒者の雇用の受け皿につなげるため、各種イベント等の連携強化及び売上の集約 ・カヌー等のスポーツのメッカと言われるほどの知名度の向上
さめうらテントパークの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期工事 (R3) 区画サイト整備、車両用通路整備、炊事棟、Wi-Fi 整備 ・第2期工事 (R6) テントサイト増設 (2サイト)、管理棟新設 ・<u>第3期工事 (R7)</u> <u>RVパーク、ドッグランエリア整備</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・さめうら湖周辺のさらなる誘客と嶺北地域の交流人口の拡大
人材確保、育成	<ul style="list-style-type: none"> ・特定地域づくり事業協同組合設立に向けた準備 (R6) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)さめうら荘利用者数	18,902人 (R4)	<u>18,894人</u>			22,000人
(2)カヌー拠点施設利用者数	12,152人 (R4)	<u>14,481人</u>			14,000人
(3)さめうらテントパーク利用者数	758人 (R4)	<u>954人</u>			2,800人

第5期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
<p>さめうら荘への誘客</p> <p>■土佐町、民間事業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある自然体験プログラム商品のさらなる造成による客単価アップ ・とさんぼ掲載のアクティビティの充実及び宿泊プランとの連携 ・嶺北地域の食や町並みなど観光素材を組み合わせたツアー造成 ・SNS等を活用した効果的なプロモーション、土佐れいほく観光協議会と連携した情報発信 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等(以下同じ) ・各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 					<p>魅力ある体験プログラムの造成・宿泊プランとのセットによる誘客</p> <p>レストランメニューのさらなる充実</p> <p>受け入れ体制のさらなる充実 (スタッフの接客スキルアップ等)</p> <p>営業活動・情報発信の強化</p>
<p>さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興</p> <p>■土佐町、民間事業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖面を利用したスポーツイベントや競技大会の誘致強化 ・スポーツ合宿の誘致 ・カヌーやサイクリングを中心とした観光客向けアクティビティ商品の磨き上げ ・さめうら荘宿泊者をターゲットとした体験プログラムを造成 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関への橋渡し、県内の市町村との連携支援 ・各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 					<p>スポーツイベントや競技大会等の誘致</p> <p>スポーツ合宿の誘致</p> <p>アクティビティ商品等のさらなる磨き上げ</p>
<p>さめうらテントパークの整備</p> <p>■土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期工事の実施 (RVパークの整備) 					<p>施設整備</p>
<p>人材確保、育成</p> <p>■土佐町、民間事業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定地域づくり事業協同組合を活用した人材の確保 					<p>特定地域づくり事業協同組合を活用した人材確保</p>

嶺北地域アクションプラン

	分野	その他
AP名 (実施地域)	No.16 土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化 (土佐町)	
実施主体	◎ 合同会社いしはらの里、◎ (株)いしはらキッチン、◎ 有限責任事業組合トサイチオン、いしはらの里協議会、土佐町	
APへの位置づけ	H28.4月	
事業概要	土佐町石原地域の資源をフル活用した稼げる仕組みを構築し、UIターン者の受け皿となる仕事を確保するとともに、収益を活用してプラスアルファの住民サービスを展開し、あらゆる世代の者にとって暮らしやすい地域づくりを進める。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
交流人口の拡大・ 宿泊施設の整備・運営	<ul style="list-style-type: none"> 簡易宿泊所(木の家)の整備(H28) → 集落活動センター推進事業費補助金(経済拡充支援事業)の活用 休校となった旧石原小学校を利用した宿泊施設の整備(R元) → 集落活動センター推進事業費補助金(基幹ビジネス支援事業)の活用 自然体験型プログラムの実施 (アメゴの掴み取り、バームクーヘン作り体験など) 県内外の小中高校生の修学旅行の受け入れ 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊者数が増加 R2: 352人 → R5: 751人 体験メニュー受入れが増加 R2: 490人 → R5: 1,193人
	<ul style="list-style-type: none"> 加工品販売事業 山のラー油販売開始(R3~) 高知家のうまいもの大賞2022「高知家賞」受賞 法人設立(R5) → (株)いしはらキッチン 事業戦略策定セミナー(県地産地消外商課所管)を受講し事業戦略策定(R6) 商品改良や販売手法改善に向けた行動計画策定(R6) → 産振アドバイザー制度の活用 新商品(ちびから)販売開始(R6.5~) さとのみせ 営業開始(H25~) リニューアルオープン(R5) やまさとの市 営業開始(H26~) 林業 団体設立(R5年1月) → 有限責任事業組合トサイチオン 	<p>・宿泊事業や加工品製造販売など、石原地域全体で稼げる仕組みは出来つつある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工品の販路拡大 「さとのみせ」及び「やまさとの市」の収益力強化 閑散期の宿泊者増、体験メニューのブラッシュアップ (株)いしはらキッチンの新加工場整備 林業の収益力強化 地元出身者が就職する、あるいは県外在住者が地域へUIターンするための雇用の受け皿を確保するための取り組み、各種事業の売上げを安定して伸ばすことが必要
地域資源の活用		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)宿泊・交流事業売上高	598万円 (R4)				900万円
(2)さとのみせ、やまさとの市売上高	1,372万円 (R4)				2,500万円
(3)(株)いしはらキッチン加工品販売額	1,500万円 (R5見込)				3,000万円
(4)トサイチオン売上高	100万円 (R5見込)				1,500万円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>宿泊・交流事業の強化</p> <p>■ 合同会社いしはらの里</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験プログラムの拡充 木の家の体験プログラムの造成及び新たな整備方針の検討 スポーツクラブ等の合宿の利用拡大に向けた検討 インバウンド受入体制の強化 <p>□ 県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等(以下同じ) 産振アドバイザー、産振補助金制度等の活用提案 				
<p>加工品の販路拡大及び売上増</p> <p>■ (株)いしはらキッチン</p> <ul style="list-style-type: none"> (一財)高知県地産外商公社と連携した営業活動の強化 製造機器の導入、HACCP対応の新加工場の整備検討、新商品の開発 <p>□ 県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> (一財)高知県地産外商公社との連携 産振アドバイザー、産振補助金制度等の活用提案 				
<p>さとのみせ(店舗)、やまさとの市(直販所)の収益力及び利便性向上</p> <p>■ 合同会社いしはらの里</p> <ul style="list-style-type: none"> 「さとのみせ」: 将来的なあり方の検討、地域内利用者の利便性の検討 「やまさとの市」: 直販所に加えて新たな機能(飲食など)の検討 <p>□ 県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザー、産振補助金制度等の活用提案 				
<p>稼げる林業の体制構築</p> <p>■ LLPトサイチオン(※LLP:有限責任事業組合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の育成指導 切り捨て間伐等受託業務の拡充 作業効率化のための機械導入の検討等 <p>□ 県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				

嶺北地域アクションプラン

	分野	その他
AP名 (実施地域)	No.16 土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化 (土佐町)	
実施主体	◎合同会社いしはらの里、◎(株)いしはらキッチン、◎有限責任事業組合トサイチオン、いしはらの里協議会、土佐町	
事業概要	土佐町石原地域の資源をフル活用した稼げる仕組みを構築し、UIターン者の受け皿となる仕事を確保するとともに、収益を活用してプラスアルファの住民サービスを展開し、あらゆる世代の者にとって暮らしやすい地域づくりを進める。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
交流人口の拡大・ 宿泊施設の整備・運営	<ul style="list-style-type: none"> 簡易宿泊所(木の家)の整備(H28) → 集落活動センター推進事業費補助金(経済拡充支援事業)の活用 休校となった旧石原小学校を利用した宿泊施設の整備(R元) → 集落活動センター推進事業費補助金(基幹ビジネス支援事業)の活用 自然体験型プログラムの実施(R2~) (アメゴの掴み取り、バームクーヘン作り体験など) 県内外の小中高校生の修学旅行の受け入れ 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊者数が増加 R2: 352人 → R6: 684人 体験メニュー受入が増加 R2: 490人 → R6: 1,256人 宿泊事業や加工品製造販売など、石原地域全体で稼ぐ仕組みは出来つつある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工品の販路拡大 ・さとのみせ閉店後の、やまさと市の市を中心とした地域経済活性化に向けた取り組み検討 ・閑散期の宿泊者増、体験メニューのブラッシュアップ ・(株)いしはらキッチンの新加工場整備 ・林業の収益力強化 ・地元出身者が就職する、あるいは県外在住者が地域へUIターンするための雇用の受け皿を確固たるものとするため、各種事業の売上げを安定して伸ばすことが必要
地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> 加工品販売事業 山の辣油販売開始(R3~) 高知家のうまいもの大賞2022「高知家賞」受賞 法人設立(R5) → (株)いしはらキッチン 事業戦略策定セミナー(県地産地消外商課所管)(R6) 商品改良や販売手法改善に向けた行動計画策定(R6) → 産振アドバイザー制度の活用 新商品(ちびから)販売開始(R6.5~) 新商品(僕、イタドリっす)の開発・営業計画策定 → 産振補助金(ステップアップ事業)の活用 高知家のうまいもの大賞2026「新商品賞」受賞 新加工場整備方針の検討(R7) さとのみせ 営業開始(H25~) リニューアルオープン(R5) 経営改善に向けた協議を実施(R7.8~11計4回) → 中山間地域振興アドバイザー制度を活用 資金繰り悪化により閉店(R7.12) やまさと市の 営業開始(H26~) 林業 団体設立(R5年1月) → 有限責任事業組合トサイチオン 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)宿泊・交流事業・ やまさと の市売上高	907万(R4)	1,121.6万円			1,525万円
(2)(株)いしはらキッチン加工品販売額	1,500万円(R5見込)	1,504.8万円			3,000万円
(3)トサイチオン売上高	100万円(R5見込)	451.3万円			1,500万円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>宿泊・交流事業の強化及びやまさと市の売上増</p> <ul style="list-style-type: none"> ■合同会社いしはらの里 ・体験プログラムの拡充 ・団体客の利用拡大に向けたパッケージプランの造成及び販促強化 ・やまさと市の市を中心とした地域経済活性化に向けた取り組みの検討 □県(地域本部等) ・PDCAサイクルによる目標達成に向けた進捗管理等(以下同じ) ・産振アドバイザー、産振補助金制度等の活用提案 				
<p>加工品の販路拡大及び売上増</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(株)いしはらキッチン ・(一財)高知県地産外商公社と連携した営業活動の強化 ・製造機器の導入、HACCP対応の新加工場の整備検討、新商品の開発 □県(地域本部等) ・(一財)高知県地産外商公社との連携 ・産振アドバイザー、産振補助金制度等の活用提案 				
<p>稼げる林業の体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ■LLPトサイチオン(※LLP:有限責任事業組合) ・地域おこし協力隊の育成指導 ・切り捨て間伐等受託業務の拡充 ・作業効率化のための機械導入の検討等 □県(地域本部等) ・産振補助金、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				